京KYOTIAN I.D.
京のおきばりさん

劇団四季 劇団員

団こと葉

DAN KOTOBA

取材・文／山田涼子　撮影／中島光行（Visual Cafe）

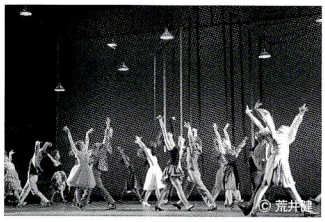
【プロフィール】京都府福知山市に生まれ、京都市、宇治市と転居し、5歳より滋賀県大津市で育つ。8歳からクラシックバレエを始め、数多くのバレエ団公演に出演。舞台芸術学院ミュージカル部本科で学び、'03年研究所入所。四季での初舞台は『アンデルセン』。『キャッツ』ディミーダ、『ミュージカル異国の丘』李花蓮、『コンタクト』ブルードレスの女を演じている。

不自然そうに見えて、実はミュージカルは人生そのもの

高校時代、「どこの大学に行くか？」ではなく「将来、何がしたいか？」を考えた。8歳のころから好きで習っているバレエを仕事に活かせたら、「それはすごいスキルになる」と思い、舞台芸術学院への進学を決意。ダンスも歌も芝居も好きだから、ミュージカルをやってみたい。最初はそんなシンプルな想いだった。「好きなものが盛りだくさんとはいえ、それはあくまでも表面的な部分。ミュージカルについて知らないのにやるのは浅はかですよね。だから、まずは知ろう！と、単身東京へ。プロとしてのエンターテインメントを発信するならやはり東京。その決意を、両親は迷いなく応援してくれたという。

言葉を大切にしてほしいとの願いから、父親が名づけてくれた「こと葉」。その願い通り、こと葉さんは舞台で力強く、ときにキュートに言葉を発する。いや、言葉だけではない。ダンスも歌も表情も、全ては自身の内側の想いがカタチとなったもの。観ている人たちに届けたくて、一緒に演じる仲間たちに伝えたくて、舞台に立つ。「ダンスも歌もお芝居も、どれも同じ。心の中に起こっているものを表現するツールのひとつなんです」。舞台という特異な状況に身を置いているからこそ、そこで行われていることは真実でなければならない。「特別なシチュエーションだからこそ、そこにリアルさが必要」――それがこと葉さんのスタンス。「尊敬するイチロー選手が、『特別なことをするためには、いかに普段通りの自分でいられるかが大事だ』って言っていて、それはお芝居にも当てはまることだなって。そのためには、お稽古と本番のどちらも大切」。稽古の時間は稽古だからこそ解ること、吸収できる知識に貪欲になる。そうして自分自身の持つ可能性や振れ幅を広げていく。演じながらフィットする部分に気づき、役との距離が縮まる。ときには、自分の中にある役の理想像に押し潰されそうになることもある。それでも、毎日の積み重ねの中で、「役にいろんなことを教えてもらって、成長させてもらってるなぁって思います」。

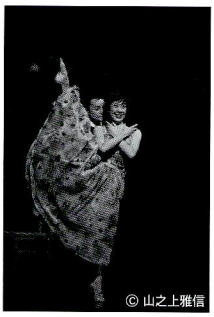
突然踊り出したり、大声で歌い出したり…ミュージカルに馴染めないという意見も多い。しかし、こと葉さんはあえて「ミュージカルってすごく自然」と言う。「感情が高ぶるから踊ってしまう、伝えたい想いが大きくなるから歌ってしまう。それって、うれしくてスキップしたり、楽しくて鼻歌うのと一緒。人間の行為としてすごく自然なこと」。そう、そしてそれこそが、ミュージカルの最大の魅力なのだ。



© 荒井健

現在上演中の『ウェストサイド物語』より。こと葉さんが一番好きな場面は、物語の鍵ともなるクライマックス。ドラッグストアで暴行されるという烈しいダンスシーンで、「本当に辛いけれど、とても重要なシーン」

ロゴ入りジャンパーは、稽古やウォーミングアップで常に着ている必需品。本番前、ロビーのソファに寝て腹式呼吸の確認した後、ポスターに向かって最終の発声。どのポスターなのかは、劇場にてお探しあれ



© 山之上雅信

セリフなしのダンスナンバーで本領を発揮した『コンタクト』より。第二幕の「ブルードレスの女」を演じた。主婦の気持ちを理解するために、「スーパーでこっそり主婦観察もしたんですよ（笑）」とのこと。天晴れ！

information

『ウェストサイド物語』

会場：京都劇場
公演期間：～7月21日（月）
チケット料金：S席1万500円、A席8400円、B席5250円、C席3150円
上演時間：約2時間55分（休憩含む）
問い合せ先：劇団四季京都オフィス　075・353・3551
http://www.kyoto-gekijo.com/